

■ご挨拶

明電舎の風力ビジネス

日本風力発電協会 理事 田中 一裕
株式会社明電舎 新エネルギー事業推進部長



はじめに

昨年に引き続き理事を務めさせていただきます田中でございます。風力発電に携わって13年を経過いたしました。電機メーカーとしての特徴を活かしJWPAではこれまで以上に業界の発展に努力して参りたいと思います。

明電舎のこれまでの風力ビジネスのご紹介

弊社の風力発電ビジネスへの取組みは昨年も本稿で述べておりますが、「風車を建てたい」という気持ちから、全国に風力発電の適地を求め風況ポールを設置しデータ収集からスタートしました。当初は取扱う風車としてドイツREpower社を選定し代理店契約を締結の上、国内に68基を納入させていただきました。納入風車の耐用年数まではおお客様にご安心いただける様しっかりと保守サービスを続けて参ります。

また、風車納入ビジネスと平行して100%子会社の(株)エムウインズにより風力売電事業も行っております。銚子の2基を始めに大規模ウインドファームの事業化と運営についての知見を得るために秋田17基、更に能登に10基(※1)を建設し、合計29基、48,500KWを運営しております。この発電所の運営により発電事業者としてのリスク管理や運転ノウハウを修得することで、お客様目線での保守サービスの実現と風車で使用される電気品の「品質向上」を心掛けております。

(※1 本案件は(株)関電工様との共同運営)

昨年より既設設備へのFIT適用が決まり苦しかった事業運営も好転し、予防保全や予知保全といった保守技術を採用入れることも積極的に検討することができる様になりました。

新たな風力ビジネス

FIT施行によりこれまで滞っていた風力発電市場もようやく動き出しました。洋上風力の実証試験も開始され、今後は環境アセス、規制緩和、系統連系等、数々の諸問題を解決し右

肩上がりの「持続的成長」を成さねばなりません。

こうした中、弊社はこれまでの実績として①代理店業務としての風車販売、②納入風車の保守メンテナンスサービス、③風力売電事業、④風車搭載用電気品製造、を手掛けて参りました。

この度、これらの貴重な経験を全て網羅したビジネスとして、弊社が製造する電気品(発電機・コンバータ・SCADA等)を搭載した風車の販売と保守メンテナンス(24時間監視(※写真)やO&M)を手掛けることと致しました。まずは日本国内への1号機を(株)エムウインズが運営する秋田の八竜風力発電所に増設し検証致します。出力は2500kW、ローター径100mです。既に許認可関係の手続きは終了し、今年の10月組立、11月調整試験、12月1日運転開始のスケジュールで進行中です。今後、運転実績を積み重ね、風力事業者様に安心してご採用いただける風車を目指して参ります。



(※写真) 明電舎の24時間監視センター